

氏 名：横田 益美

学位の種類：博士（看護学）

学位記番号：甲第 253

学位授与年月日：2024 年 3 月 8 日

学位授与の要件：学位規則第 5 条第 1 項該当

論文審査委員：主査 奥 裕美（聖路加国際大学 教授）

副査 山田 雅子（聖路加国際大学 教授）

副査 小林 京子（聖路加国際大学 教授）

副査 中村 知夫（国立成育医療研究センター 総合診療部 在宅診療科 診療部長  
医療連携・患者支援センター 在宅医療支援室 室長）

論文題目：小児にも対応できる訪問看護師の育成を目指した『小児版訪問看護 OJT プログラム』の実装

#### 博士論文審査結果

新生児・小児医療の進歩や小児の在宅療養環境整備の促進により、日常的な医療的ケアを必要としながら在宅療養する小児が増加し、小児療養者への訪問看護サービスの需要が増加している一方、小児療養者を積極的に受け入れる訪問看護事業所（事業所）の数は不足している。訪問看護事業所で働く看護師の小児看護実践経験の不足が要因となっていることが分かっており、自治体による小児訪問看護人材育成研修は実施されているものの、参加者は少なく、小児訪問看護サービスを提供できる事業所は増えていない。そこで本プロジェクト研究は、安定した小児訪問看護サービスを提供していくための新たな訪問看護人材の育成方略として、「東京都訪問看護 OJT マニュアル」を基盤とした「小児版訪問看護 OJT プログラム（プログラム）」を試作、プログラムの評価を行うことを目的に実施された。プログラムの実装は、研究者が非常勤看護師として働く、A 事業所で行った。研究者は家族支援専門看護師であり、A 事業所において家族支援が重点的な課題となる小児療養者を担当している。

実装戦略として、実装ツールを使った学習支援看護師に向けトレーニング、OJT ごとの研究者による支援と PDCA サイクルを用いた評価とフィードバックを行った。実装アウトカムとして、プログラム実施の忠実性、適切性、受容性、実行可能性、組織アウトカムとして学習支援看護師の指導を受ける小児看護未経験看護師の知識・ケア技術の向上、提供する看護への自信の向上、療養者家族からの信頼感、学習支援看護師の学習支援に対する自信の向上を測定、評価した。

学習支援看護師2名と小児未経験看護師2名がプログラムに参加した。計画に忠実に実施され、組織アウトカムの作業仮説も全て指示された。小児未経験看護師2名はプログラム終了後も担当小児療養者への訪問看護を継続することができている。

審査では、本プロジェクトにおける研究者の立場と役割を明確に記載すること、インタビュー調査の分析を見直すこと、訪問看護師による小児療養者の心身の状態のアセスメントや臨床判断の適切性について加筆すること、結果を踏まえて考察を加筆すること、論文の構成を見直すこと、文献リストを除いて剽窃チェックを再度行うことの必要性が指摘された。

修正後の論文では、上記の点について適切に修正されていることを審査員で確認した。

小児療養者への訪問看護サービスの提供は、地域での生活を支える重要なリソースであり、その担い手の育成は喫緊の課題である。実際にサービスを提供しながら小児療養者への訪問看護を学ぶ本プログラムは、家族からの評価も高く、小児療養者への訪問看護サービス提供の拡大へとつながる可能性があり、今後の発展が期待される。

以上により、本論文は本学学位規定第5条に定める博士（看護学）の学位を授与することに値するものであり、申請者は看護学における研究活動を自立して行うことに必要な高度な研究能力と豊かな学識を有すると認め、論文審査ならびに最終試験に合格と判断する。